



④



②



①



⑥



⑤



③

- ①地域再生協議会によるコミュニティFMの説明。
- ②救命救急訓練を体験。
- ③避難者カードに記入する訓練参加者。
- ④住民避難開始、蓮沼スポーツプラザに避難。
- ⑤千葉県防災士会の講話。
- ⑥防災備蓄品の展示。
- ⑦自主防災組織の講習会。

地域の連携が不可欠 蓮沼地区で防災訓練を実施

「市民による市民のための防災訓練」をスローガンに掲げ、災害時の防災訓練を11月11日、蓮沼地区住民を対象に蓮沼スポーツプラザで行いました。

午前7時30分、地震が発生し大津波警報が発表され避難指示により、地域住民が徒歩や自転車などで避難を開始しました。

避難所では地区自主防災会が、避難者を誘導し、避難者は、避難者カードに記入。自治会ごとにまとめ避難所運営本部へ報告するなど、避難所開設訓練・情報収集・伝達訓練が行

われしました。

また、地域再生協議会による炊き出し訓練やコミュニティFMの説明、九十九里沿岸の津波映像の上映などが行われました。

NPO法人千葉県防災士会から避難者向けに「東日本大震災に学ぶ」市内の区・自治会向けに「自主防災組織の活性化について」と題し講習会がありました。

参加者は、「20分程度避難に時間がかかりました。近所の方と一緒に来ました」津波映像を見て、津波の恐ろしさを改めて感じました」と話していました。



⑦

白幡八幡神社祭礼



白幡八幡神社の祭礼が、10月28日に行われました。(旧暦の9月9日を過ぎた日曜日に行われる)

祭礼に先だち「御旗織」の行事や、東金御殿山からの竹を神社に運ぶ「お竹取り」の行事などが行われました。お龍頭の舞(写真)は、大獅子、子獅子、女獅子の三頭で弓旗を先導に十二番、四方固め、弓ぐり、橋がかりの四舞を舞います。源頼朝によって疫病退散のために奉納されたのが始まりと伝えられています。

カメラマンSUNとくんが撮る!

写真館

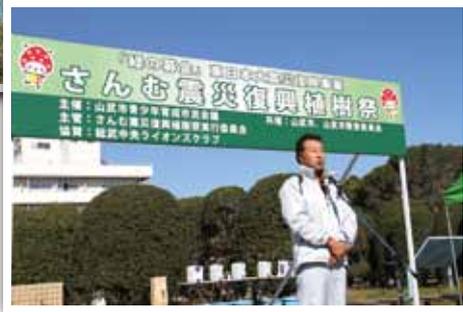
市を巡って見つけたホットな話題を
カメラで追ってみました。

Camera Report

カメラリポート



▲ 植樹するまえに一回、ポットを
水にいれ浸します



苗木が元気に育ちますように さんむ震災復興植樹祭

平成23年3月11日に起きた東日本大震災で津波被害を受けた山武市蓮沼南浜海岸。その海岸の環境・景観・防災の役割を担う防風林の再生や植樹をととして学ぶ青少年の健全育成、命の大切さや郷土愛を育む協働活動として、「さんむの森」づくり「さんむ震災復興植樹祭」を、11月4日に開催しました。

親子や友だちなど577人が参加し、蓮沼南浜海岸保安林にクロマツ、広葉樹（タブノキ、ヤマモモ、トベラ、マサキ）の苗木5,000本を植樹しました。

参加者は「わたしたちの生活を守ってくれる木が、病気などに負けないよう大きく育ててほしいですね」と話していました。

◀ あいさつをする山武市青少年育成市民会議会
小山会長



▲ 森林保全協定調印式を終えて握手をする渡邊理事長
(写真左)と椎名市長

民間活力で森林を守る 森林保全協定調印式

10月31日、山武市内の日向の森で、ワタミグループのNPO法人「Return to Forest Life」と市が森林保全協定を締結しました。

森林は、所有者の高齢化や材木価格の低迷により、荒廃の一途をたどっています。

「Return to Forest Life」は、森林保全活動のNPO法人として、美しい地球を子どもたちに残すため、国内の不健全な森林の再生や保全活動を行うことを目的に活動しています。この活動が民間活力を利用した森林整備を推進する市側の意図と一致し、市有地である日向の森の一部(約11ha)において、森林保全協定を締結し、森づくりに取り組むことになりました。

くまさんのどんぐりを育てる



まつおこども園の園児は、地区の社会福祉協議会の方と、森の木のもとになるどんぐりをみんなで育てようという運動に参加し、3年かけて成長させたどんぐりの木をくまさんの待つ森へ送りました。(11月5日)

第7回山武市健康福祉まつり



山武市健康福祉まつりが、さんぶの森交流センターあららぎ館で開催されました。

各種催し物や展示を通して多くの市民が、福祉の現状や健康づくりについて関心を深めました。(10月21日)

ミニトレインフェスタinさんむ



東日本大震災の復興支援として、海岸エリアのイメージアップと観光の振興を図ろうとミニトレインフェスタinさんむが、蓮沼海浜公園展望塔前で開催されました。(11月10日・11日)